



# 安川電機 (6506)

2003年9月 中間決算説明会資料(要約)  
(2003年11月14日)

説明者 取締役社長 中山 眞

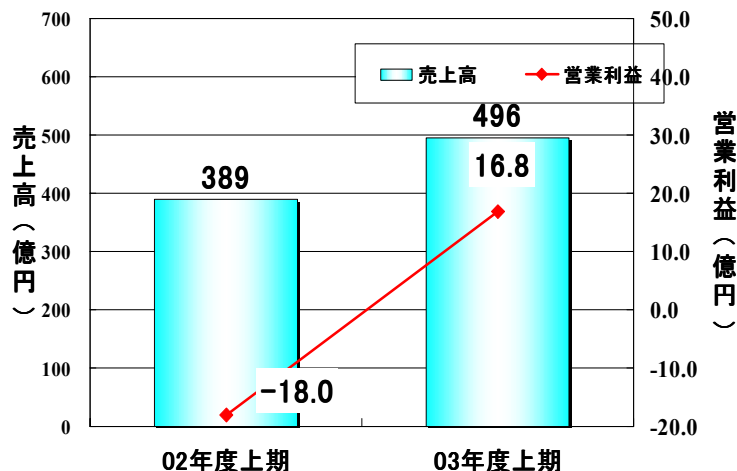
・2003年9月決算概要	1-3頁
・中計における2003年度の位置付け	4頁
・2003年度業績見通し	5-6頁
・コストモデルの実現	7頁
・B/S構造改革(連結)	8頁
・成長市場への取り組みと新規事業創出	9頁

# 2003年9月 中間連結決算概要

- **売上高1,170億円 (02年度上期979億円、前年同期比+191億円)**  
SER(半導体ウエハ搬送ロボット)は低迷を続けたものの、期首から受注の立ち上がりを見せたモーションコントロール部門およびINR(産業用ロボット)の増加により、全体では大きく増加した。
- **営業損益19.0億円 (02年度上期 ▲28.9億円、前年同期比+47.9億円)**  
**経常損益13.6億円 (02年度上期 ▲43.8億円、前年同期比+57.4億円)**  
売上増加により、営業・経常利益とも前年同期比で大きく増加し、黒字化を達成。
- **中間純損益▲5.5億円**  
**(02年度上期 ▲68.5億円、前年同期比+62.9億円)**  
経常利益の増加により、前年同期から大きく改善。

# 2003年9月 中間連結決算部門別概要

## モーションコントロール



## ■ モーションコントロール部門

売上高 496 億円 (前年同期比+107 億円、+28%)

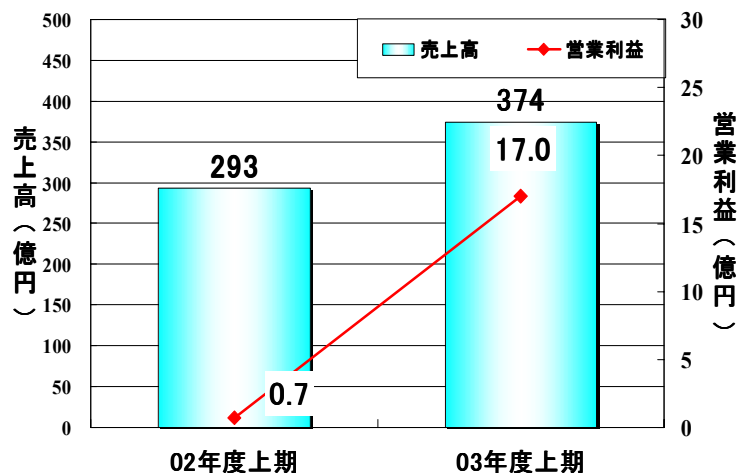
営業利益 16.8 億円 (前年同期比+34.9 億円)

ACサーボモータは液晶、工作機械、金属加工機、射出成形機向けが堅調を持続した他、電子部品関連向けも大きく回復。

インバータは、中国向けの輸出拡大等により堅調に推移。欧州では、オムロンとの販売合弁会社を4月に設立し、拡販を強化。

売上・利益ともに大幅増となった。

## ロボティクスオートメーション



## ■ ロボティクスオートメーション部門

売上高 374 億円 (前年同期比+80 億円、+27%)

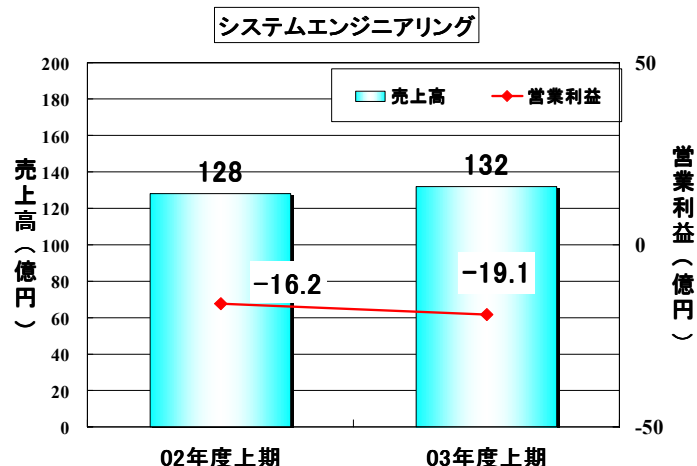
営業利益 17.0 億円 (前年同期比+16.2 億円)

欧州でアーク溶接用途が大きく伸張するとともに、液晶ガラス搬送用ロボットが好調に推移。

一方で半導体関連は低迷が続いた。

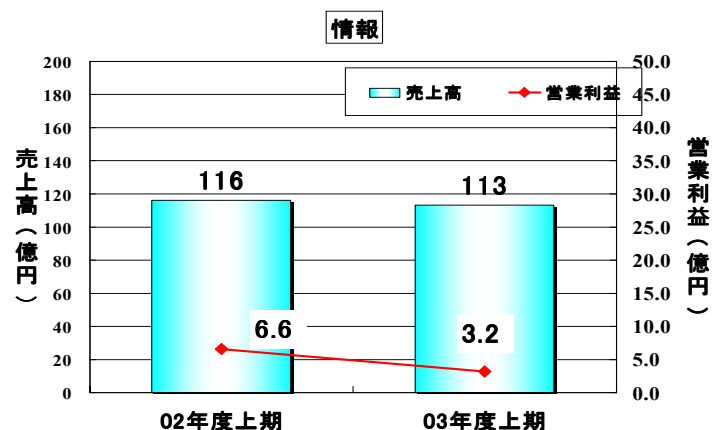
SERの不振をINRの伸びがカバーし、売上・利益ともに大幅増となった。

# 2003年9月 中間連結決算部門別概要



■ **システムエンジニアリング部門**  
売上高132億円(前年同期比+4億円、+3%)  
営業損益▲19.1億円(前年同期比▲2.8億円)

公共・鉄鋼関連の受注が低迷する中、エレベーター用IPMモータ等の拡販により、前年レベルを維持。



■ **情報部門**  
売上高113億円(前年同期比▲3億円、▲3%)  
営業利益3.2億円(前年同期比▲3.3億円)

情報産業全体が成長の踊り場に来ていることにより、売上高・営業利益とも期首予想を未達。

■ **その他部門**  
【売上高54億円(前年同期比+6%)、営業利益3.1億円(前年同期比+5.2億円)】

# Win21プラスでの03年度の位置付け

## 03年度：高収益企業への転換のための足場固め

### Win21プラスの施策

#### 進化(深化)・レベルアップ

- 持続的コスト構造改革(恒久モデル化)
- 業務プロセス改革・業務効率化
- シェア拡大・事業機会の最大化
- 戦略モニタリングテーマの絞り込み、財務目標との関連性強化
- 企業価値最大化のための対応強化

#### 新機軸

- 中国市場へ注力(中国戦略室の新設)
- 新規事業育成の強化  
(事業開発推進機能の新設)
- クロスファンクション活動による遂行力強化

### 03年度重点テーマ

新C-50プログラムによる原価低減  
副資材コストダウン  
人員適正化、業務効率化  
必要受注量の確保

資産の効率化  
・棚卸資産の削減  
・不要・遊休資産の売却

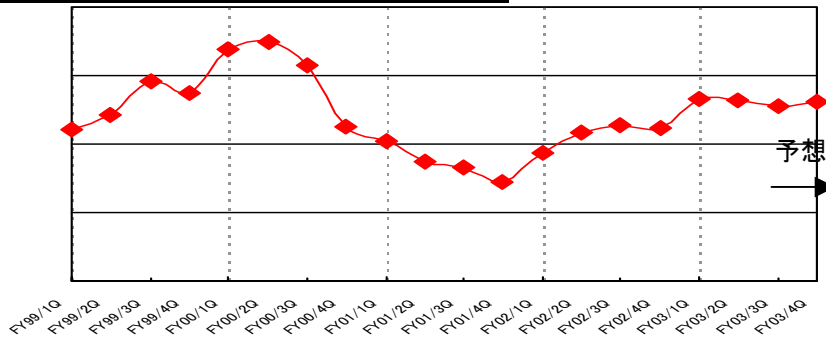
強力に推進

# 2003年度 通期連結業績見通し

- 通期見通しについては、モーションコントロールおよびロボティクスオートメーション部門の受注・売上が、引き続き堅調に推移するものと見られる。  
自動車関連・液晶関連の受注が高水準で推移し、SERの立ち上がりの遅れをカバー。
  - 利益面では、上期に実施した新製品によるコストダウン等の施策の効果が下期に入り大きく貢献してくる。
- ・売上高 2,550億円 (前期比 +289億円、113%)
  - ・営業利益 132億円 (前期比 +69億円)
  - ・経常利益 120億円 (前期比 +80億円)
  - ・当期純利益 60億円 (前期比 +85億円)

# 2003年度モーションコントロール、ロボティクスオートメーションの受注動向

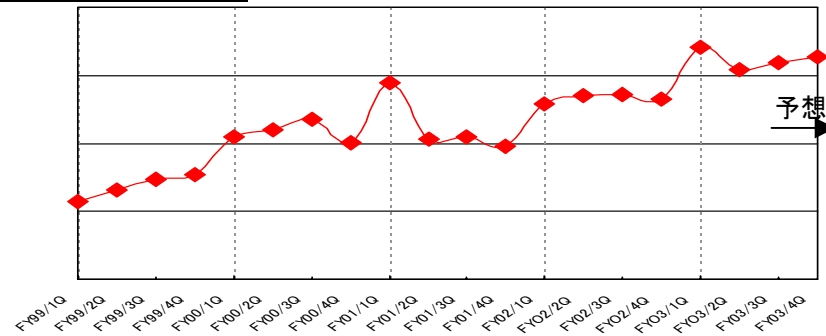
## モーションコントロール単独受注



期初から受注が立ち上がり高水準で推移

- ・半導体・液晶製造装置
- ・電子部品実装機
- ・工作機械・射出成型機・金属加工機
- ・エレベータ・空調・繊維機械

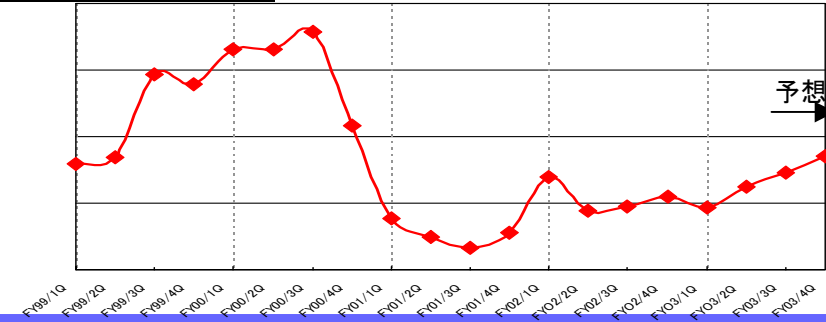
## INR単独受注



自動車関連は堅調を維持し、液晶関連は好調に推移。

- ・アーク溶接
- ・スポット溶接
- ・塗装ロボット
- ・ハンドリングロボット
- ・液晶ガラス搬送ロボット

## SER単独受注



上期中は低迷を続け、受注回復の時期も当初想定より遅れている。

- ・半導体ウエハ搬送ロボット

# コストモデルの実現(連結)

## 新C-50プログラムによる原価低減

- ・コストダウン製品開発、既存製品リエンジニアリング
- ・EMS、海外生産の拡大
- ・02年度施策である生産専門会社設立のフル効果

## 人員適正化

- ・ERP導入効果、拠点・機能統合、業務改革等による要員削減

## 副資材コストダウン

- ・全社集中購買の実施、e-調達対象の拡大

## バリューチェーン改革

- ・ビジネスプロセスごとの高付加価値化、コストダウン、生産性向上
- ・管理コスト・機能コストの重複排除

## 売上増による利益増



利益を大幅に改善

# B/S構造改革(連結)

## 03/上実績

03年3月

D/Eレシオ  
3.2倍

### 方策

棚卸資産削減  
売上債権圧縮  
有価証券売却  
土地売却

有利子負債削減

03年9月

D/Eレシオ  
3.0倍

## 03/下見通し

03年9月

D/Eレシオ  
3.0倍

### 方策

棚卸資産削減  
債権流動化  
資産売却

目標達成に向け、方策を強化

- ・推進部門の強化
- ・調達リードタイムの短縮
- ・管理の細分化、可視化

有利子負債削減  
自己資本充実

04年3月

D/Eレシオ  
2.2倍

# 成長市場への取り組みと新規事業創出

今後の成長市場である自動車関連、半導体・液晶関連、中国市場に注力

自動車関連

それぞれのアプリケーションごとに最適化したロボットの拡販によるシェア拡大。

液晶・半導体関連

大型ガラス基板対応ロボットの開発・市場投入。  
半導体搬送ロボットの製品拡充による競争力強化。

中国市場

設備投資の増加に対応した製品（サーボモータ、インバータ、IPMモータ等）の拡販。

新規事業を創出・育成し、05年度売上高100億円を達成する。

医療関連

ナノ・バイオ

情報関連

アシストマシン

新形サーボ・アクチュエータ

技術・製品の革新による差別化・競争力向上へ